

## 研 究 論 文

自閉症児への支援に活用する社会資源に関する  
ソーシャルワーク演習

松山 郁夫\* ・ 中島 範子\*\*

Social Work Practice on the Social Resources to Support for Children  
with Autism

Ikuo MATSUYAMA\* and Noriko NAKASHIMA\*\*

## 【要約】

自閉症児への支援に関するソーシャルワーク演習で、運動を中心とする自由遊びの場において自閉症児を支援する体験をした学生が、支援に活用する社会資源をどのように認識しているのかを検討した。学生による支援に活用した社会資源に関する気づきを分析した結果、対象児の興味や関心、自発性や創造性等のストレングスを捉えながら、社会資源を活用することに視点を置いてケアマネジメントを行っていると考えた。

## 【キーワード】

自閉症児，学生トレーナー，社会資源，ソーシャルワーク演習，ケアマネジメント

## I はじめに

社会福祉士については、「社会福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他関係者との連絡及び調整その他の援助を行うことを業とする者」（「社会福祉士及び介護福祉士法」（昭和62年法律第30号）第2条第1項）と規定されている。

社会福祉士に代表されるソーシャルワークの実践者が、福祉実践を可視化し、実践知を形成しながらより強い実践の動機と実践力を形成すると、より深い専門性と地域社会における自らの責任や使命感を内包した新たな実践への動機の基盤をなすものとなる。社会福祉士としての専門性については、「実践の表象的な部分だけに着目し満足するだけでなく、その地中にまで浸透し、利用者と喜びや悲しみを共にすることを通じて、自分なりの実践知を発見・形成し、次なる実践の動機を一層強くするところに連関する。高度な専門職でありながらも、究極的には利用者の生活実感との差異化ではなく、むしろ共有化・同質化を目指すもの」との言及がなされている（齋藤 2010）<sup>1)</sup>。

2007年の社会福祉士及び介護福祉士法改正に伴う養成教育内容の見直しでは、より実践力の高い社会福祉士養成をめざし、実習・演習の教育内容の充実に焦点をあてたカリキュラムになった。

社会福祉士国家試験については年に一回、筆記試験によって行われている。その科目は、①人体の構造と機能及び疾病、②心理学理論と心理的支援、③社会理論と社会システム、④現代社会と福祉、⑤社

\* 佐賀大学大学院学校教育学研究科

\*\* 佐賀大学教育学部附属教育実践総合センター

会調査の基礎、⑥相談援助の基盤と専門職、⑦相談援助の理論と方法、⑧地域福祉の理論と方法、⑨福祉行政と福祉計画、⑩福祉サービスの組織と経営、⑪社会保障、⑫高齢者に対する支援と介護保険制度、⑬障害者に対する支援と障害者自立支援制度、⑭児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度、⑮低所得者に対する支援と生活保護制度、⑯保健医療サービス、⑰就労支援サービス、⑱権利擁護と成年後見制度、⑲更生保護制度、の19科目から構成されている。

ソーシャルワーク関連科目の重みはさらに増し、特に演習科目・実習科目についてはそれまでの単位数（時間数）のみならず、クラス人数や教えるべき項目、担当教員や実習指導者の資格要件など細部にわたり大幅な見直しが行われた。演習に関しては時間数もそれまでの120時間から150時間となった。しかしながら、効果的な演習の進め方や内容・教材などについては、十分な検討が行われているとは言えず、各担当者が試行錯誤しながら演習プログラムの組み立てに頭を悩ませているのが実情ではないかと指摘されている（丸山 2012）<sup>2)</sup>。

「介護福祉士制度及び社会福祉士制度の在り方に関する意見」（平成18年12月12日社会保障審議会福祉部会）においては、社会福祉士に求められる役割について「福祉課題を抱えた者からの相談に応じ、必要に応じてサービス利用を支援するなど、その解決を自ら支援する役割」、「利用者がその有する能力に応じて、尊厳を持った自立生活を営むことができるよう、関係するさまざまな専門職や事業者、ボランティア等との連携を図り、自ら解決することのできない課題については当該担当者への橋渡しを行い、総合的かつ包括的に援助していく役割」、および「地域の福祉課題の把握や社会資源の調整・開発、ネットワークの形成を図るなど、地域福祉の増進に働きかける役割」の3つを重要視している。

今後の社会福祉士に必要な知識及び技術については、「福祉課題を抱えた者からの相談への対応や、これを受けて総合的かつ包括的にサービスを提供することの必要性、その在り方等に係る専門的知識」、「虐待防止、就労支援、権利擁護、孤立防止、生きがい創出、健康維持等に関わる関連サービスに関わる基礎的知識」、「福祉課題を抱えた者からの相談に応じ、利用者の自立支援の観点から地域において適切なサービスの選択を支援する技術」、「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」、「地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術」、「専門職としての高い自覚と倫理の確立や利用者本位の立場に立った活動の実践」とされている。

これらのことより、社会福祉士養成教育においては、福祉の対象への実際的な援助体験を通して、ソーシャルワークに関する演習を行う必要があると考えられる。その際、直接援助だけでなく間接援助や関連援助に関する内容も含めて、総合的・包括的な視点から検討していくような演習が求められよう。

佐賀大学で開催している運動を中心とする自由遊びの場である「発達障害児の運動教室」（通称：ウルトラマンクラブ）において、数年間対象児のトレーナーを体験した学生は、直接援助だけでなく間接援助にも目を向けている。対象児への接し方、運動教室終了後に行うこと、運動教室の進行、安全管理の促進、運動教室開始前の準備、運動教室の意義、および運動教室以外の時間に行っておく準備について、幅広く捉えながら支援をしていることが明らかにされている。これらより、対象児の適応を目指した支援を継続すると、運動教室を運営する視点を持つようになると考察されている（松山・中島 2016）<sup>3)</sup>。

その運営においては、多くの社会資源に関する知見を要し、対象児の支援に適切な社会資源を見出すことが求められる。つまり、学生トレーナーは、総合的・包括的な視点から対象児への支援を行っているものと考えられる。なお、ウルトラマンクラブに参加している対象児の多くは、自閉症（自閉スペクトラム症・自閉症スペクトラム障害）を有している。

ソーシャルワークには、社会資源を活用してクライアントのニーズの充足を図ることで生活問題を解決していく機能があるため、社会資源は重要なソーシャルワークの構成要素と位置付けられている。また、福祉ニーズを充足させるための有形、無形のハードウェアおよびソフトウェアを総称するものであ

るため、ソーシャルワークに活用できるものはすべて社会資源で、「ひと・もの・かね」を含むあらゆるものと捉えられる（社会福祉士養成講座編集委員会 2015）<sup>4)</sup>。つまり、社会資源とは、ソーシャルニーズを充足するために動員される施設・設備、資金や物資、さらに集団や個人の有する知識や技術を総称したものである（社会福祉士養成講座編集委員会 2013）<sup>5)</sup>。したがって、福祉の対象への実際的な援助体験を通してソーシャルワーク演習を行う場合、支援に用いる社会資源にも視点を置き、それがどのようなものなのか、どのように活用していけば支援に有効なのかを捉えていくことが不可欠と言える。

以上より、本研究の目的は、運動を中心とする自由遊びの場において自閉症児のトレーナーを体験した学生が、対象児の支援に利用する社会資源についてどのように捉えているのかを検討することとする。

## Ⅱ 方 法

調査対象は、自閉症等の発達障害児へのトレーナーとしての支援を2年から3年程度行い、運動教室の運営も体験している5名の社会福祉を専攻する学生とした。平成27年度に、これらの学生に無記名により「自閉症児への支援に必要と考えられる社会資源」、および「運動教室の運営について気づいたこと」について思い浮かぶ範囲で、箇条書きをするように依頼した。

それぞれのすべての記述について、KJ法（川喜田 1967）<sup>6)</sup>により同じ意味内容のものごとに分類し、それらの内容について検討した。

倫理的配慮としては、事前に、学生が記述した内容を自閉症等発達障害児への支援に関する研究以外には使用しないこと、および研究に使用する際、分類した記述内容を基にして分析するため、個人のプライバシーは保護され、一切不利益がないことを説明し、全員から同意を得ている。

## Ⅲ 結 果

### 1. 自閉症児への支援に必要と考えられる社会資源

「自閉症児への支援に必要と考えられる社会資源」に関しては計56件の記述がなされていた（表1）。それらの内容は次の通りであった。

- (1) 「専門職」（記述数4：7.1%）, 「周囲の支援者」（記述数3：5.4%）, 「家族」（記述数2：3.6%）, 「友人」（記述数2：3.6%）からなる「人的資源」（計11件の記述：19.6%）。
- (2) 「福祉支援」（記述数20：35.7%）, 「教育支援」（記述数6：10.7%）, 「医療支援」（記述数3：5.4%）からなる「物的資源」（計29件の記述：51.8%）。
- (3) 「子供が他者と交流する機会」（記述数11：19.6%）, 「親同士の交流機会」（記述数5：8.9%）からなる社会参加を支援する「関係的資源」（計16件の記述：28.6%）。

表 1 自閉症児への支援に必要と考えられる社会資源 ※全記述数56件

#### (1) 人的資源：記述数11（19.6%）

##### 専門職：記述数4（7.1%）

- ・ 自閉症児をサポートする支援員等の人材
- ・ 親や家族が子供について相談できるような専門家や機関
- ・ 療育機関の専門職
- ・ 相談機関の専門職

**周囲の支援者：記述数3（5.4%）**

- ・ 触れ合うことのできる自閉症児や同世代，大学生や大人など多くの人
- ・ ボランティアの学生（親や先生と違い，年も近くたくさん遊んでくれるような学生）
- ・ 自閉症児やその家族が安心して任せることができるボランティア

**家族：記述数2（3.6%）**

- ・ 見守ってくれる家族
- ・ 一緒に過ごす兄弟

**友人：記述数2（3.6%）**

- ・ 一緒に遊ぶ，学ぶ友達
- ・ 障害を理解していて接してくれる同世代の子供

**(2) 物的資源：記述数29（51.8%）****福祉支援：記述数20（35.7%）**

- ・ 障害への理解を深くするため情報を与えてくれる機関・設備
- ・ 親がより良い対応ができるように対応の仕方を教えてくれる機関
- ・ 臨時でも気兼ねなく子供を預けられる施設
- ・ 自立して生活していくための支援をおこなってくれる施設
- ・ 自閉症児や家族のニーズに即応したサービスやケアを支援する地方公共団体等の組織
- ・ 自閉症児が安心して生活できる地域
- ・ 自閉症児が安心して遊べる設備のある施設
- ・ 似た境遇を持つ家族と交流できるような教室や場所
- ・ 安全で広く自由に遊べる場所
- ・ 自閉症児や家族のニーズに即応したサービスやケアを行う場所
- ・ 自閉症児やその保護者に必要な福祉施設
- ・ 自閉症児についての日常生活や様々なことに関する相談機関
- ・ 発達を促進する療育機関
- ・ 親や家族が子供について相談できる専門機関
- ・ 生活支援を行う施設や団体
- ・ 適切な親子関係を築くことができるようにする親に対する支援の場
- ・ 家庭の中で安定した生活ができるような相談支援
- ・ 自閉症児やその保護者に必要で適切な額面の援助金や年金制度
- ・ 自立して生活していくための法律・制度
- ・ 就労についての正確な情報や支援

**教育支援：記述数6（10.7%）**

- ・ その子の障害について理解してくれている学校
- ・ 学校等の教育機関
- ・ 将来的に就労に結びつくような学習の場と必要な技能を身につける場
- ・ 必要な教育をしていくのにかかる資金
- ・ 親が子供に必要な教育をしていくための法律・制度
- ・ 十分な教育や就学，学校生活などの教育による支援

**医療支援：記述数3（5.4%）**

- ・ その子の障害について理解してくれている病院などの医療機関

- ・緊急の場合や馴染みの土地でない場合でも即応できる病院
- ・健康を保つために必要な健康診断

**(3) 関係的資源：記述数16 (28.6%)**

**子供が他者と交流する機会：記述数11 (19.6%)**

- ・自閉症児が生活しやすい環境
- ・多くの人と触れ合わせるための機会や行事に関する案内
- ・自閉症児やその家族が安心して参加できるような余暇活動
- ・多くの人と触れ合わせるための機会や行事
- ・ウルトラマンクラブ（発達障害児の運動教室）のように子供が自由に遊べる場
- ・緊急の場合や馴染みの土地でない場合でも即応できるコミュニティ
- ・自閉症の遊びの場のような自由に遊べる機会
- ・ウルトラマンクラブのような他の子どもとの関わりや学生と遊ぶことによって人間関係を学ぶことのできる場
- ・同年代の子ども達とコミュニケーションをとる機会
- ・ウルトラマンクラブのような日常生活では得られない刺激を受ける場所や機会
- ・社会のルールを学ぶ機会

**親同士の交流機会：記述数5 (8.9%)**

- ・自閉症児の親に対する情報提供や情報共有
- ・親が子供のことについての悩みを話し合える場
- ・自閉症児についての正確な情報や支援についての周辺住民の理解や学びの場
- ・同じ自閉症を共有できる親の会や家族教室
- ・似た境遇を持つ家族と交流できる機会

## 2. 運動教室の運営について気づいたこと

「運動教室の運営について気づいたこと」に関しては、計38件の記述がなされていた（表2）。それらの内容は次の通りであった。

- (1) 対象児が十分に遊ぶことができる配慮：（記述数9：28.7%）
- (2) 運営の難しさ：（記述数6：15.8%）
- (3) 危険のないような配慮：（記述数6：15.8%）
- (4) 対象児との接し方：（記述数5：13.2%）
- (5) 問題を解決すること：（記述数5：13.2%）
- (6) 対象児について知ること：（記述数4：10.5%）
- (7) 運営をして得られたこと：（記述数3：7.9%）

**表2 運動教室の運営について気づいたこと ※全記述数38件**

**(1) 対象児が十分に遊ぶことができる配慮：記述数9 (28.7%)**

- ・運営の際の自分の意見や考えを分かりやすくまとめ、的確に相手に伝わるように話すこと⇔円滑な進行や全員で同じ意見や目標を共有できるから
- ・ウルトラマンクラブが始まる最初の数分で改善点や注意事項を迅速に丁寧に伝える必要があること
- ・運営に必要なことは沢山あり、それは運営を行う以外でもこれから何度も使う場面があると分かった。
- ・参加している子たちの遊びの好みや特長によって遊び道具の配置や選択について決めたほうが良い

- ・5人でローテーションを組み、司会1人・カメラ係1人・他の人は子供達につく形で運営してきた。
- ・参加者の気づいた点や自分たちの意見を交え、次回のウルトラマンクラブに活かしてきた。
- ・途中から参加する子供達によって準備する遊具を変えたりした。そのことによって、走り回れるスペースができた。
- ・最も考えなければならなかったことは、子供達の安全と遊び道具の配置である。この二つは関係性がある。道具の配置を間違えると怪我につながることもある。子供達が何をして遊ぶかによって、出す道具を選んだり、配置を変えたり、臨機応変に対応ができていた。
- ・プラズマカーで遊ぶ範囲をボール遊びの範囲に加えたことで、プラズマカーで遊ぶスペースがなくなると同時に決められた範囲で遊ぶというルールがなくなってしまった。今後どのように解決していくのか考えなければならない。

#### (2) 運営の難しさ：記述数6 (15.8%)

- ・子供の安全ばかりを考えるといろんなことが規制されてしまって、自由に遊ぶことができるウルトラマンクラブの良さが失われてしまうことがあるので難しい。
- ・今までのウルトラマンクラブで参加するときは先輩方が司会などの運営をしていたので、最初はどんな風にすればいいかわからず常に右往左往した。
- ・特に問題となったのは、遊具の配置場所である。最初は遊具の準備に時間がかかり配置場所までは気が利かなかった。
- ・最終日に体育館の反面を使って、子供達がボール遊びをした。そのため、プラズマカーをいつもと違う場所で遊ばせたりした。周りには、遊具があつて少し危険だったかもしれない。このようなときにどうしたらよかったのか課題である。
- ・また、全体を通して思ったのが、子供達の親御さんとのコミュニケーションが少ないことである。
- ・子供達と遊ぶ前に健康状態や今日どんなことをしたのか聞いたり、遊んだ後にどんな風に遊んだ、こんなことを話してくれたと話したりする時間も必要ではないかと思った。

#### (3) 危険のないような配慮：記述数6 (15.9%)

- ・危険がないように周囲に気を配ること
- ・危険なことをしたとき等必要があるときはきちんと叱ること
- ・なんでも口に持っていく子がいるので、飲み込んでしまわないように口を怪我しないように目を離さない
- ・マットや跳び箱周辺で遊ぶ子からは目を離さないようにする参加児やその親のニーズに合致した取り組みにすること
- ・参加児や親のニーズを知ること
- ・全体を通して決めたルールや個人に合わせたルールを上手く使いながら、誰もが楽しく参加できる会を作ること

#### (4) 対象児との接し方：記述数5 (13.2%)

- ・子供が遊んでいるときに受容的にその子を見守ること
- ・どうしても遊ぶ範囲が守れない子には、きちんと遊ぶのをやめさせてから話をする
- ・水分補給などの休憩は、その日の気候によって声掛けをこまめにするなどして、対応をする
- ・帰りがたがる子や出口に行きたがる子には、出口から離れたところでゆっくり話を聞いてあげる
- ・褒めることでいいところを伸ばしていくような声掛けをする

#### (5) 問題を解決すること：記述数5 (13.2%)

- ・問題が出たときに次回までに解決策を考えて実行し、問題を解決していくこと



- ・問題の迅速な解決
- ・問題が起きれば皆で話し合い、出た意見を次回に活かすこと
- ・反省点を改善していくこと
- ・前回の反省点を皆で話し合い、改善策を次回のはじめに学生に伝え、実行することで同じ反省点を出さないように心がけること⇒何度も同じ反省点が出ることも無かったのでこの方法は適していると思う。

(6) 対象児について知ること：記述数4 (10.5%)

- ・参加する子供について一人一人を知ること
- ・参加する子供一人一人の理解を深めること
- ・参加する子がどんな遊びを求めているかを知ること
- ・対象児の興味や関心を把握すること

(7) 運営をして得られたこと：記述数3 (7.9%)

- ・ウルトラマンクラブの運営に携わり、ウルトラマンクラブをよりよくしていくために何が必要か考えることができた。
- ・運営とは、様々な角度から起こりうる問題を想定して、その対応方法を考えることまでしなければならない。
- ・難しいことも多くあるが、問題を解決していき、よりよい運営ができるようこれからも学んでいきたい。

## IV 考 察

### 1. 自閉症児への支援に必要と考えられる社会資源

社会資源については生活環境に実在しているもので、目標を達成するために活用できる制度的、物的、人的の各要素、情報、および利用者における問題解決力や援助への動機づけも資源と捉えられている。

「自閉症児への支援に必要と考えられる社会資源」に関する記述の内容は、人的資源として専門職、周囲の支援者、家族、友人、物的資源として福祉支援、教育支援、医療支援、および関係的資源として子供が他者と交流する機会、親同士の交流機会からなっていた。

社会資源については、公私の諸施設、各種制度や法規、条例等制度的資源も包含した物的資源、住民、ボランティア、専門職等人的資源、情動的資源、および人的資源等と関係を結んでいく媒体になる貨幣、地域、信用等の関係的資源に分類されている（杉本ら 2002）<sup>7)</sup>。

学生トレーナーは、運動を中心とする自由遊びの中で対象児に関わって支援をしている。対象児が興味・関心を示すレクリエーション用具等と一緒に遊んでいるため、対象児の意欲を引き出す等の内的資源も活用している。したがって、学生トレーナーは広く社会資源に目を向け、それらを活用することで対象児の自発性や自律性を高めるように働きかけているものと推察される。

### 2. 運動教室の運営について気づいたこと

「運動教室の運営について気づいたこと」に関する記述の内容は、対象児が十分に遊ぶことができる配慮、運営の難しさ、危険のないような配慮、対象児との接し方、問題を解決すること、対象児について知ること、運営をして得られたことからなっていた。

ソーシャルワークには、個人の「成長・変化」指向をもつアプローチが多様にある（副田 2003）<sup>8)</sup>。発達障害児の運動教室では、対象児が自主的に運動遊びを選ぶようにしているため、興味・関心のある遊びに取り組むことになる。そのため、学生トレーナーは対象児の意思や自主性を尊重しながら、受容

的に接したり、うまくできないときには励ましたり、できたことを積極的に褒めるように心がけている。したがって、運動教室は対象児にとって安心して過ごすことができ、自信を持てる体験ができる場となっている（松山 2011）<sup>9)</sup>。

学生トレーナーは、対象児が運動を中心とする自由遊びを楽しめるように、運動教室の運営を行っていることで、運営に関する視点が多岐に亘っているものと窺える。このため、学生トレーナーは、対象児のニーズ、および必要なソーシャルワーク機能を察知し、それに適合する社会資源を活用したり、対象児自身が自発的に社会資源を活用したりできるように対象児に働きかけているものと判断される。つまり、運動を中心とする自由遊びの場において対象児を支援するには、ソーシャルワークが不可欠と言えよう。

### 3. 自閉症児への支援のための社会資源に関するソーシャルワーク演習

フォーマルな社会資源とインフォーマルな社会資源の適切な組み合わせが効果的な支援を可能にする。また、インフォーマルな社会資源の利用が、利用者の精神面のケアに大きな効果をもたらすとされている（菊池 1996）<sup>10)</sup>。インフォーマルな社会資源はクライアントとの関係性が親密で、内的資源については、クライアントのストレングスでもある内的に備えている適応能力、解決能力、人が環境に働きかけてそれを変化させる能力とも捉えられる。したがって、運動教室における学生トレーナー、レクリエーション用具、体育館、対象児の遊ぶ意欲・興味・関心・自発性・創造性等の社会資源は、対象児の発達を促進したり障害を軽減したりするように作用していると窺える。

社会資源はソーシャルワークを構成する最も基本的な要素であるため、社会福祉士養成教育において、社会資源に関する知見を深めておく必要がある。以前より、社会資源については、対象者の活用にかかわらず存在し、利用法のいかんによっては大いに便益を得るもので、広く社会福祉的ニーズを充足するためのあらゆる手段や方法であると定義されている。その意義はいかにそれを活用するかという利用の技術によって評価されるもの（大田 1966）<sup>11)</sup>と指摘されている。

適切に利用者と社会資源を結びつけることによって、利用者の地域社会での生活を支援していくという方法については、ソーシャルワークのアプローチであるケアマネジメントに位置づけられている（白澤・橋本・竹内 2000）<sup>12)</sup>。ケアマネジメントには、人々と社会サービスとを結びつける機能がある（梅崎 2004）<sup>13)</sup>。言い換えれば、システムをつなぎ合わせる役割がある（Hepworth, Rooney & Larsen 1997）<sup>14)</sup>。

ケアマネジメントではフォーマルな社会資源とインフォーマルな社会資源を合わせると、サービスの供給主体の数が増加し、利用者がそれらを組み合わせることにより、ニーズの多様化・高度化への対応ができる（白澤 1987）<sup>15)</sup>と論及されている。すなわち、ケアマネジメントとは、クライアントの多様なニーズに対応するための援助技術と言える。

学生トレーナーは運動を中心とする自由遊びの場において、社会資源のなかでも対象児の興味や関心、自発性や創造性等ストレングスを活用しながら、多様な遊びのニーズに対応する働きかけをしているため、ケアマネジメントを行っているものと考えられる。

## V 結 論

自閉症児への支援に利用する社会資源に関するソーシャルワーク演習を通して、運動を中心とする自由遊びの場でトレーナーを体験した学生は、①社会資源に目を向け、それを活用することで対象児の自



発性や自律性を高めている。②対象児のニーズ、および必要なソーシャルワーク機能は何かということ  
を察知し、それに適合する社会資源を活用したり対象児自身が自発的に社会資源を活用したりできるよ  
うに働きかけている。③対象児の興味や関心、自発性や創造性等ストレングスを活用しながら働きかけ  
るケアマネジメントを行っている。以上が考察された。

## 引用文献

- 1) 齋藤征人 社会福祉士の「実践知」形成過程に関する仮設的研究 帯広大谷短期大学紀要 (47)  
31-42 2010
- 2) 丸山裕子 社会福祉士養成教育におけるソーシャルワーク演習の位置と課題―担当教員からのヒア  
リング調査にもとづく考察― 桃山学院大学総合研究所紀要 38(1) 211-224 2012
- 3) 松山郁夫・中島範子 発達障害児に対する支援体験を通じた学生の気づき 佐賀大学教育実践研究  
33 141-150 2016
- 4) 社会福祉士養成講座編集委員会編 新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法I 第3版 中  
央法規出版 2015
- 5) 社会福祉士養成講座編集委員会編 新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法I 第2版 中  
央法規出版 2013
- 6) 川喜田二郎 発想法：創造性開発のために 中公新書 1967
- 7) 杉本敏夫監修 津田耕一・植戸貴子編 障害者ソーシャルワーク 久美出版 2002
- 8) 副田あけみ ソーシャルワークとケアマネジメント：概念の異同を中心に ソーシャルワーク研究  
29(3) 20-25 2003
- 9) 松山郁夫 発達障害のある子どもの運動教室の取り組み―平成22年度の活動を通して― 子どもの  
発達と支援研究 2 123-128 2011
- 10) 菊池信子 ケアマネジメントと社会資源―利用者側の資源活用― ソーシャルワーク研究 22 (1)  
相川書房 1996
- 11) 太田義弘 社会資源とコミュニティ・オーガニゼーション 北星学園大学北星論集 3 82-98 1966
- 12) 白澤政和 橋本泰子 竹内孝仁監修 『ケアマネジメント概論』 中央法規出版 2000
- 13) 梅崎薫 ケアマネジメントとソーシャルワーク機能 ソーシャルワーク研究 30(3) 39-46 2004
- 14) Hepworth, D. H., Rooney, R. H. & Larsen., J. A. Direct Social Work Practice, 5th ed., Books /Cole  
Publishing. 1997
- 15) 白澤政和 社会資源論 大阪市社会福祉研究 10 大阪市社会福祉協議会 1987

## 謝 辞

本稿の作成にあたり、発達障害児の運動教室（ウルトラマンクラブ）に関係されてある皆様にご協力  
いただきました。感謝申し上げます。